

農産物を高付加価値化

県と鶴岡市産学官連携でキックオフ

で、本年度から3力年で1億円ずつの委託金を受けることが決まっている。庄内柿やラフランスといった地域農産物について①機能性成分の探索

県と鶴岡市が提案した事業

文部科学省の都市エリア産学官連携促進事業に採択された「地域農産物の機能性研究」のキックオフミーティングが26日、鶴岡市の東北公益文科大鶴岡タウンキャンパスで開かれた。

・評価②栽培技術の開発③食品加工と商品開発④の3テーマで取り組み、高付加価値化を目指す。事業の実施主体である庄内地域産業振興センターや慶応大先端生命科学研究所、山形大農学部、企業、行政の関係者約40人が顔合わせを兼ねて出席。同センターの梅津勇科学技術コーディネーターが事業体制やスケジュールを説明し「独立した機関が情報交換や議論を通して連携できる仕組みづくりにつなげたい」とあいさつした。6人の研究者が今取り組んでいるメタボローム解析、血圧降下作用食品素材・成分のスクリーニングといったシーズについて発表し合った。